

川俣町 幼稚園、小・中学校のあり方 検討委員会

提言内容の概要

これから、ますます知識基盤社会が進み、国際的な視野やコミュニケーション能力が求められるなど、子どもたちに求められる資質・能力が、今後、ますます多様化していくことが予想されます。

また、全国的な少子化は、川俣町においても進行しています。出生率が下がり、児童生徒数も減少する中、子どもたちが、人との関わりの中で、自ら課題意識を持ち、その解決のために、主体的・対話的で深い学びを通して、意欲的に取り組むことができるための教育環境はどうあるべきなのか、校舎の老朽化への対応も含め、より魅力ある教育の振興は町としての重要な課題の一つと考えます。

1 川俣町の期待される幼児、児童生徒を育成するために

～ 川俣の教育「シルクプラン」の推進 ～

□ (1) 「シルクプラン」で目指す子ども像

「未来をひらく 創造性豊かで たくましく生きる」人間

※ シルクのイメージから … 「しなやかさと きめの細かさ、柔軟さと強靱さ」

□ (2) 「シルクプラン」具現のための課題

- ① 子どもの数の減少に伴い、集団のもつ教育力を生かした学びをどう創造していくか。
- ② 幼・保と小学校、小学校と中学校との接続強化
- ③ 地域とともにある幼・保、小・中学校の取組

2 「シルクプラン」に基づく川俣町の教育のあり方に関する提言

□ (1) 「シルクプラン」具現のための小学校再編

提言1

町内の小学校を1校に再編(*)し、「シルクプラン」に基づく望ましい(川俣町の)人づくりを進める。

* 山木屋小学校については、この計画とは別に、町の「通学区特認校制度」により進め、学校を継続する。

- ・ 安心・安全な登下校の環境整備や遠距離通学者のための配慮
- ・ 児童が学びやすい学校環境の整備

□ (2) 幼児教育・保育の充実と子育て支援

提言2

幼保一元化を志向した幼保連携型「認定こども園」を新設し、幼児教育・保育の充実と子育て支援の充実を行う。

- ・ 一か所で、0歳児～5歳児までの、保育から教育につながる教育を進めるための施設の整備(認定こども園の要件を満たす施設づくり)
- ・ 送迎の際の安全性に十分配慮した環境整備

□ (3) 地域と幼・保、小・中学校とをつなぐ「文教地区」構想

提言3

町内の2地区にそれぞれの特色を生かした文教地区を設定する。

- ◇ 川俣町文教地区A(学びの探究エリア)
- ◇ 川俣町文教地区B(学びとふれあいのエリア)

□ (4) 川俣町の「つながる教育」

提言4

郷土川俣を愛し、地域のよさを誇りに思う教育を具現していくため、川俣の「つながる教育」を一層進めていく。

- ◇ 幼・保、小・中の学びの連続性
- ◇ 地域、保護者、学校のコミュニティ
- ・ コーディネートする「地域支援本部」の設置